

平成 21 年度静岡県観光の流動実態と満足度調査の結果（概要版）

1 調査の概要

本県を訪れる観光客の流動実態と本県の観光に対する満足度を把握するため3年に1度、調査を実施している。

・調査時期

夏季調査：平成 21 年 8 月、秋季調査：平成 21 年 11 月、冬季調査：平成 22 年 1 月

・調査対象

静岡県内の観光施設、駅など立寄施設計 24 施設及び宿泊施設計 34 施設

・調査方法

立寄施設：各施設にて調査員が聞き取り（平日から1日、土日祝日から1日）

宿泊施設：各宿泊施設にて配布、後日郵送による自記形式

・標本数

| | 21 年 8 月 | 21 年 11 月 | 22 年 1 月 | 合計 |
|------|----------|-----------|----------|---------|
| 立寄施設 | 1,606 件 | 1,578 件 | 1,598 件 | 4,782 件 |
| 宿泊施設 | 374 件 | 205 件 | 232 件 | 811 件 |
| 合計 | 1,980 件 | 1,783 件 | 1,830 件 | 5,593 件 |

2 調査結果の概要

(1) 旅行者の居住地

- ・ 県全域では、**県内居住者が全体の 41.3%で最も多く**、次いで関東 35.6%、中部 13.8%である。**県内の比率は、調査の毎に増加し、逆に関東地域が減少している。**
- ・ 地域別では、**伊豆地域、富士地域では、関東地方がトップで、それぞれ 61.9%、44.1%である。中部地域、西部地域では、県内居住者の依存度が高く、それぞれ 43.8%、63.9%となっている。**
- ・ 北海道 0.8%、九州・沖縄 2.1%で合計 2.9%と比率的には少ないが、前回調査の 0.4%から増加し**空港開港による効果**が見られる。
- ・ 今回初めて調査対象とした海外居住者は、全体の 0.6%であり、国内・国外の空港就航先（北陸を除く）合計では 3.5%と近畿の 4.3%に迫る割合となっている。

(2) 旅行者の年齢・形態

- ・ 県全体では、**60～69 歳が全体の 20.9%と最も多く**、70 歳以上を加えた層は、全体の 30.5%を占め前回より増加し、**本県への来訪者の高齢化**がうかがえる。
- ・ 一方、**外国人旅行者は、40 代が 33.9%、20 代が 29.8%と若い旅行者が目立つ。**
- ・ 旅行形態は、前回同様、**個人・家族の旅行が 4 分の 3**を占めている。特に一人旅が、10.4%と前回に比べ増加している。こうしたことから「個人旅行」が全体の 87.9%を占める一方、「パック旅行」7.2%や「団体旅行」4.9%の割合は、前回調査と同様低い。

(3) 県外居住者の本県への旅行回数と本県を選んだ理由

- ・ 本県への旅行回数は、「20回以上」が25.5%と前回同様、約4分の1を占めリピーターが多いことがわかる。特に関東、中部の居住者では20回以上がトップである。
- ・ 一方、海外（50%）、九州・沖縄（34.5%）、北海道（28.6%）では、「初めて」の割合がトップで空港開港の影響がうかがえる。
- ・ 旅行先を選んだ理由（複数回答）では、「自然」、「近さ」、「温泉」が、それぞれ32.8%、32.2%、31.4%と多い。
- ・ 伊豆地域は、「温泉」61.4%、「自然」39.2%、「グルメ」23.1%、富士地域は、「自然」41.3%、「買い物」32.5%、「近さ」30.6%、西部地域は、「近さ」34.5%、「自然」24.6%、「動物園・遊園地等」21.5%と地域により特徴がうかがえる。

(4) 利用交通手段

- ・ 「自家用車」が全体の72.4%と前回同様最も多く、次いで「鉄道」15.6%、「貸切バス」8.4%の順である。飛行機は前回の0.1%から3.5%に大きく増加した。
- ・ 飛行機利用者の98.8%は富士山静岡空港が占めた。特に北海道、九州・沖縄、海外では100%が富士山静岡空港を利用。

(5) 宿泊日数

- ・ 県全体では、日帰り旅行者は、52.1%、宿泊客は47.9%であるが、伊豆地域に限ると宿泊は75.9%に達し、伊豆地域においては宿泊客数の割合が高いことがわかる。
- ・ 平均宿泊日数は、1.37日で前回調査1.42日から減少している。

(6) 旅行者の消費支出

- ・ 旅行者全体では、前回の20,246円に対し、今回は、11,842円と41.5%と大幅に減少。旅行においてもデフレ傾向が明らかだった。
- ・ 旅程別・居住地別の状況は次のとおり。
 - 県内日帰り客（今回2,299円－前回3,962円＝△1,663円）
 - 県外日帰り客（同6,057円－同8,411円＝△2,354円）
 - 県内宿泊客（同18,827円－同23,700円＝△4,873円）
 - 県外宿泊客（同25,502円－同34,320円＝△8,818円）
- ・ 県内旅行消費支出総額（旅行者一人当たりの消費支出×旅行客数）は、5,479億円と前回の6,267億円に比べ12.5%の減となり、この結果、生産波及効果も7,078億円で前回の8,323億円の15%減となった。

(7) 旅行者の満足度

- ・ 旅行者の満足度を項目別に見ると、前回同様、自然景観（平均階級値：1.43）、宿泊施設のサービス（1.31）、観光地の魅力・特徴（1.29）などが高く、滞在中の情報収集（1.06）、旅行中の移動（1.07）などは低い。また今回、新たに調査した食の魅力（1.21）は比較的満足度は高いが土産（1.06）と低い結果となった。
 - ＊ 旅行の満足度の水準を「大変満足」：2、「ほぼ満足」：1、「やや不満」：-1、「非常に不満」：-2の平均階級値として評価した。
- ・ 再訪意向は、「是非もう一度来たい」56.1%、「できればまた来たい」41.7%、合計で97.8%の方が「再訪意向がある」と回答。前回同様、満足度が高いことがうかがわれる。